

柳井嗣雄

柳井嗣雄『リゾームの営み』  
杉皮繊維、楮、染料、針金 550×150×6 cm 2023年

## 素材と表現

現代美術今立紙展 大賞受賞作家2人展

2023.6.16fri-7.2sun

開館時間：9:30-17:00 ※最終日は16時迄

メイン会場：卯立の工芸館

ほか2会場（南越前町内）で同時開催  
会場により会期が異なります。詳しくはチラシ裏面を参照

主催：現代芸術研究会

後援：福井県、越前市、越前市教育委員会、南越前町教育委員会、  
福井新聞社、福井テレビ、卯立の工芸館

助成：げんでんふれあい福井財団

朝倉俊輔

朝倉俊輔『水宇宙-円-』 越前和紙、墨 180×180 cm 2015-2023年

1982年から1992年にかけて、現代美術今立紙展が全国公募として開催されました。北美のメンバーである河合勇氏が地元の素材を使っでの表現を提唱し、河合氏の友人である八田豊氏が全国公募の展覧会として開催を始めました。和紙やその他の紙を素材としたアート展として、どこにもない独特のユニークな展覧会として、その後大きく発展しました。越前和紙（神和紙）の産地である今立を和紙アートの中心にしようという試みでした。今回は、その今立紙展で大賞受賞経験のある柳井と朝倉の現在と表現の行方を展望してみようという企画です。



柳井 嗣雄  
Tsuguo Yanai

和紙造形、美術家

1953年 山口県萩市生まれ。1977年 創形美術学校版画科卒業。1978-80年 スタンリー・W・ヘイターに師事（アトリエ17パリ）。80年より銅版画家としてスタート。一方で、9年間版画刷り師として活動する。和紙の研究がきっかけで、1985年より紙の作品、ペーパーワークを開始。紙漉きの手法をベースにしたインスタレーション作品を特長とする。そのほか平面、立体、ワークショップといった幅広い分野で活動を展開している。「現代美術今立紙展」佳作賞、優秀賞、大賞（1990年）「日本国際美術展」佳作賞（1990年）PAS 和紙アートスタジオ主宰



柳井嗣雄『古の岸边』メタセコイア繊維、染料、金網 460×120×58cm 2020年



第10回大賞参照作品 柳井嗣雄『Genius Loci - 胚胎』麻 800×330×70cm 1991年



朝倉 俊輔  
Shunsuke Asakura

和紙造形作家

1957年 福井県南条町（現南越前町）生まれ。福井大学大学院 教育学研究 修了。和紙を素材とした平面、立体の作品制作を続けている。丹南地区での活動がメインだが、イスラエル、ドイツ（ブレーメン）といった海外のアーティストとの交流にも力を入れている。長年、公立学校で美術教育に携わってきたことから、児童画研究家・評論家としての側面がある。「現代美術今立紙展」準大賞（1985年）、大賞（1987年）「国際丹南アートフェスティバル」準大賞（1993年）



第7回大賞作品 朝倉俊輔『O-O』和紙、柿渋、墨等 160×90×2P 1987年

## 柳井嗣雄＋朝倉俊輔 - 素材と表現 -

現代美術今立紙展 大賞受賞作家2人展

[越前市、南越前町の計3会場で開催]

**卯立の工芸館 2023.6.16fri -7.2sun 9:30-17:00**

入館料:300円 火曜日休館 入館受付は16:30まで

※最終日は16時までの開館です

**南越前文化会館 2023.6.11sun -6.18sun 9:30-17:00**

月曜日休館

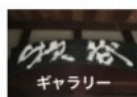
**牧谷ギャラリー 2023.6.10sat -7.2sun 12:00-17:00**

原則、金曜日・土曜日・日曜日でのみの開館ですが、例外あり（右記）

**ギャラリートーク 6.17sat 11:00-12:30**

対談：出品作家＋西村直樹（福井県立美術館主任学芸員）

会場：卯立の工芸館



もし休館日や不在の場合でも、朝倉までお電話いただければ、可能な限り対応させていただきます。（朝倉携帯：090-2834-6885）  
牧谷ギャラリーにお越しいただいた方には、展覧会のカタログを差し上げます。



越前市 卯立の工芸館（越前和紙の里内）  
〒915-0232 福井県越前市新在家町9-21-2 ☎0778-43-7800

南越前町 南越前文化会館  
〒919-0203 福井県南条郡南越前町牧谷29-25-1 ☎0778-47-3810

牧谷ギャラリー  
〒919-0203 福井県南条郡南越前町牧谷81-8 ☎090-2834-6885

各会場へはお車でお願いします。（駐車場完備）



朝倉俊輔『宇宙-FUDO-』  
雲肌麻紙、墨  
190×100cm 2022年